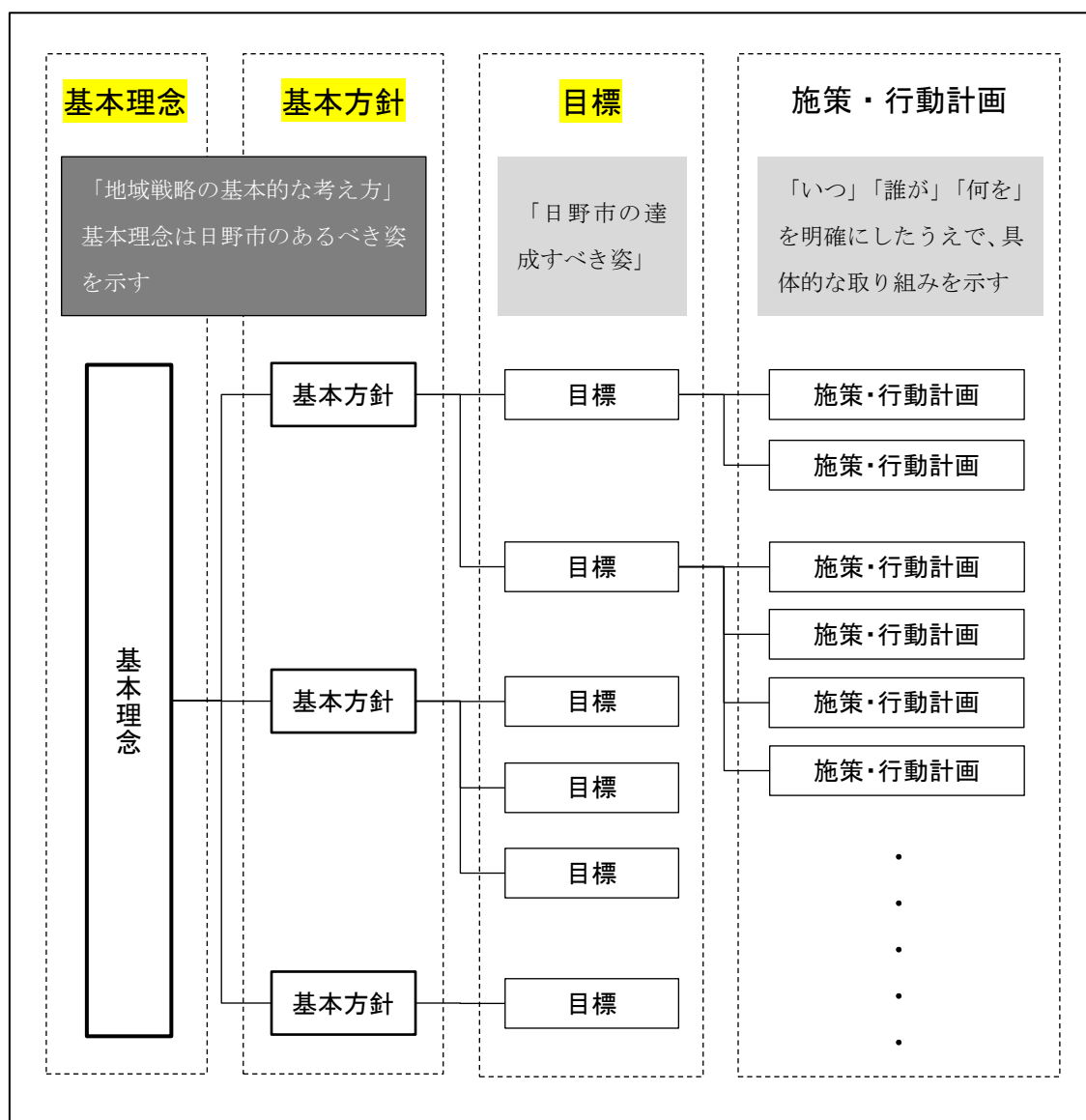


基本方針の検討

基本方針について、検討の流れとそこから考えられた試案を以下に示す。

はじめに、日野市生物多様性地域戦略における基本方針の位置づけは下図のとおりである。

基本方針の位置づけ



※黄色マーカーは言葉の使い方、定義について確認が必要な部分

第４回日野市生物多様性地域戦略策定委員会では、委員の方々から基本方針に関するご意見をいただいた。そのご意見を基本方針へ反映するため、基本方針の「考え方」と、基本方針の内容として「重要なポイント」の抽出を行った。

基本方針の「考え方」

- ・ 基本方針は生物多様性の現状や市民のニーズで組み立てる
- ・ 「水とみどりのまち」を強調して検討を進める
- ・ 「水とみどりのまち」をベースにし、その中に市民とのつながりや持続可能性を含める
- ・ 自然環境調査から得られた意見と市民参画部会のワークショップから得られた意見を全てばらし、再度組み立て直す
- ・ 日野市は地形がベースになって生物多様性が生まれているので、その点をクローズアップした基本方針のキーワードが必要
- ・ 市民が主役や、つなげることも大切であるが、何を大切にしたいかという視点が見えるようにする
- ・ 日野市は東京都の中で丘陵地と台地と低地の３つの地形がある唯一の自治体。環境の基盤がしっかりしているので、そこを見据えて多様性を考えることが重要
- ・ 市民の関心を高めて、市民が参画することは重要。みんなで力を合わせて地域戦略を実行するという内容が必要
- ・ 生息地などの保全に加え、新たな緑の創出も、基本方針の一つの軸として検討する必要がある

基本方針の内容として「重要なポイント」

- ・ 河川は生息環境を奪われた生きものの最後の逃げ場所になっているため、改変を行う場合はそこに生息する生きものに配慮する必要がある
- ・ 日野市で大切な生きものは川にいる。その点で日野市の地域戦略は多摩川や浅川をどうするか検討しなければならない
- ・ 河川管理者へ意見の言える仕組みが重要である
- ・ 多摩丘陵は動物園がある事で周囲の動物が増えている。多摩平団地のモミ林は武蔵野台地で唯一の大きなモミ林であり希少性の高い環境である。用水路は独自の生態系ができている場所も多く、市でも調査を続けている重要な場所である。台地の湧水と丘陵地の湧水は由来の違う別物であるため、生息する生きものも違っている。このような日野市らしさを明らかにしたうえで、自然を見つめた検討が必要である

いただいた基本方針の「考え方」と、内容として「重要なポイント」を踏まえて、生物多様性基礎調査から得られた課題と、市民参画部会で得られた日野市の課題・特徴を再整理するにあたり、基本方針の検討の流れを以下のとおり定めた。

基本方針の検討の流れ

- ①市民が生物多様性に関心を持つきっかけとして「知る」、「学ぶ」ことが必要であり、
- ②生物多様性を高めるためには「使う」、「育てる」、「つくる」が大切になる。
- ③それらの条件が揃うことで、生物多様性を「守る」ことが可能になる。

以上の検討で得られた、「知る」「学ぶ」「使う」「育てる」「つくる」「守る」を生物多様性に求められるニーズとして、生物多様性基礎調査から得られた課題と、市民参画部会で得られた日野市の課題・特徴の再整理を実施した。再整理した結果については[参考資料 6](#)と[参考資料 7](#)に内容を取りまとめている。

以上から、委員会で得られた意見と、再整理から得られた生物多様性のニーズに基づき、3 つの基本方針を検討した。案として3つの基本方針を以下に示す。

基本方針（案）

①知る・学ぶ（生物多様性を体感する）

「すべてのひとが生物多様性を体感し、知る、学ぶことで生物多様性を支えよう」

生物多様性を身近に感じる経験を通して、日野市の自然の現状をすべてのひとが学びます。知ることは今後の地域戦略の活動の起点となり、豊かな生物多様性を共通認識とすることで、みんなで力を合わせて生物多様性を支える機運を高め、活動の活性化を図ります。

【関連づけられるキーワード】

勉強会、体験（イベント）、市民参画、コミュニティ、外来種問題、高齢化・後継者不足

②使う・育てる・つくる（生物多様性を最大限活用する）

「生きものと人とのより良い関係づくりを行い、日野市の生物多様性を最大化しよう」

生物多様性に必要なことは自然を守ることだけではなく、人が手を入れ、自然と関わることで生み出されます。人と自然が共生することで得られる価値観や考え方が生物多様性には重要です。自然の恵みを一方的に収奪するのではなく、持続可能性を考慮して活用することで、既にある生物多様性の最大化を図ります。

【関連づけられるキーワード】

みどりの創出、活用、改善、緑地管理、モニタリング調査、農地の減少、都市農業

③守る（今の生物多様性を守り、未来へつなげる）

「多様な地形と河川が生み出した日野市の水とみどりを未来に継承しよう」

台地の崖線に残されたみどり。丘陵地の森。用水の張り巡らされた低地。多摩川と浅川の河川環境が育む動植物など、日野市の生物多様性は地形が由来となり生み出されたものが多くあります。私たちが享受してきたこれらの日野市ならではの自然の恵み絶やさないために、今ある生物多様性を未来の世代に継承します。

【関連づけられるキーワード】

地形、保護・保全、みどりの減少、環境劣化、希少種